



長岡技術科学大学 体育・保健センター 年報  
平成23年度（速報）版



平成24年4月



長岡技術科学大学  
体育・保健センター

長岡技術科学大学  
体育・保健センター一年報  
平成23年度(速報)版

目 次

1. はじめに ——センター長挨拶
2. 管理報告  
保健部門
3. 医療法医療安全管理義務化に伴う医療安全管理対策指針による自主管理点検票
4. 資料

# 1. はじめに



体育・保健センター長 三宅 仁

長岡技術科学大学 体育・保健センター 年報 平成23年度版（速報版）をお届けします。従前と同様で、年度末直後のデータですので、まだ揃っていないものも多数ありますが、速報版でお届けいたします。後日、問題なければ確定版と致します。（データの一部は統計的使用を目的に得られたものでありますので、目的外使用はお断り致します。）

昨年平成23年3月11日午後2時46分、宮城県沖を震源とする未曾有の大地震が発生し、それによって引き起こされた津波、さらには地震と津波の両方で破壊された福島第1原子力発電所の事故により、千年に一度の地震・津波の被害と、原発の放射能漏れという過去2度の大きな事故を上回るかもしれないという大災害が起きました。繰り返しになりますが、震災・津波で亡くなられた方に衷心から哀悼の意を捧げ、被災者の方には一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。この大震災によって、日本は大きく変わりました。まだ目に見えるものはあまりありませんが、日本人のみならず世界中の人類に大きな変化をもたらしたことは明白です。本学に限ってもさまざまな影響が出ています。ただし、震災に直接の原因があるものはほとんどありません。しかしながら、多くの影響を受けていることも明らかです。

他大学保健管理センターの状況については、メーリングリスト等により、かなり生々しいものが把握できました。また7月ならびに平成24年3月には福島県、宮城県等を視察し、比較的直後の状況と1年後の復興状況を見ることもできました。しかしながら、一言で言えば未だ復興ならずという状況で、胸が痛みます。

さて、センターの人事では大岡保健師が11月から2度目の産休に入っており、非常勤の滝澤信子看護師と入れ替わりました。非常勤事務職員として安達早苗さんも12月で退職し、1月から勝笑美さんが勤務されています。非常勤カウンセラーの野村智子先生も産休が終わり、平成24年4月から再び勤務して頂けることとなっています。角田智恵美、

三浦かおり両カウンセラーも引き続いてお願いすることとなっておりますが、おふたりで勤務されたこの1年少しの間、さらにカウンセリングが充実したと思いますが、平成24年4月からは3人となりますので、さらなる充実が期待されるところです。(従前同様、本報告書ではプライバシー保護の観点から、学生相談および職員のメンタルヘルス相談については省いています。ご理解の程、お願い申し上げます。傾向としては発達障害・学習障害の相談が増えているように思います。また、教職員の相談もわずかですが増えています。) 非常勤学校医は大橋正和先生がご都合で夏にお辞めになり、空席でしたが、これまた平成24年4月からは内科の木村嶺子先生と精神科の森田善晴先生の両先生に来て頂くこととなり、嬉しい限りです。担当事務職員は山田豊学生支援課学生生活支援係長も大塚勝也氏に交代しました。学生支援課長の木間等氏も3月末をもって定年を迎えられました。後任は田村正美氏です。

今シーズンのいわゆる新型インフルエンザ(現呼称 インフルエンザ(H1N1)2009)については少し散発しましたが、ほとんど問題なく過ぎました。一方、実験室での事故など産業保健活動もさらに重要となってきております。

少し前からLOHAS(Lifestyles Of Health And Sustainability)が唱えられてきました。ここでいうライフスタイルは生活習慣病(いわゆるメタボ症候群)の生活習慣に似ていますが、環境を意識することでは少し違うかも知れません。LOHASはいわゆるマーケティング用語であり、売らんかな精神が衣の下に少し顔をのぞかせていますが、近代文明の一部を否定するところは今日の状況にある意味言い当てているのかもしれませんが。生活習慣病もさまざまな現代病も我々人類が生きているこの地球環境と無縁ではありません。多くの人が苦しんでいる花粉症などはその典型かも知れません。福島第一原発の放射能がその原因のひとつとならないよう、願ってやみません。体育・保健センターでは学生諸君や教職員の皆様の健康保持増進のため、スタッフ一同、より良いセンターを目指して努力する所存でありますので、十二分に活用されることをお願いするものであります。

平成24年4月

(表紙背表紙写真：体育・保健センター主催講演会 演題 「石巻赤十字看護専門学校の再建支援」 講師 元長岡赤十字看護専門学校副校長 (現新潟県看護協会副会長) 藤田 和子 先生 平成23年7月13日の様子 )

## 2. 施設管理報告

- 平成 23 年度年間行事予定
- 保健管理関係
  - 定期健康診断
  - 応急処置状況
  - 健康相談
  - 健康診断証明書発行数
  - 経年変化

平成23年度体育・保健センター年間行事等予定

月	体 育 関 係		保 健 関 係	
4	1	屋外体育施設の使用開始	18	AED講習会
	15	体育施設の使用割振り(夏期)	20,27	(放射線(X線)作業従事者の特別健康診断)
5	14	(春季球技大会)	11~13	定期健康診断
	16	屋内プール使用開始	17~20	定期健康診断受診者の再検査
			23,24	定期健康診断受診者の再診察
6				
7			上旬	体育・保健センター講演会
			2,3	第3学年入試(学力)救護
			8	AED講習会
8			4,5	全国大学保健管理協会関東甲信越地方部 会研究集会及び地方部会総会(東京芸術大 学)
			31	(教職員の定期健康診断(生活習慣病検査))
9	16~18	技大祭のため体育施設使用休止	2	
			下旬	(有害・VDT・運転業務従事者の特別健康診断)
			20	(放射線(X線)作業従事者の特別健康診断)
10	1	(秋季球技大会)		
			11	(放射線(X線)作業従事者の特別健康診断)
11	上旬	体育施設の使用割振り(冬期)	2	防災訓練
			9	体育・保健センター講演会
	中旬	屋外体育施設の冬準備(ネット降ろし等)	10,11	第49回全国保健管理研究集会(下関)
	30	屋内プール閉鎖	19	第1学年入試(推薦)救護
12				
1			14,15	大学入試センター試験救護
			25,26	第33回全国メンタルヘルス研究会
	中旬	体育・保健センター講習会		
2			25	第1学年入試(一般)救護
3			上旬	(有害・運転業務従事者の特別定期健康診断)
			中旬	(放射線(X線)作業従事者の特別健康診断)

( )は体育・保健センターが直接関与しない行事

# 平成23年度定期健康診断実施状況

平成23年6月22日現在

実施日 平成23年5月11日(水)～13日(金)

受診者数

<全体>

分 種 別	区	対象者数	受診者数			
			聴打診等 (受診率)		X線撮影 (受診率)	
学生		2,396	1998	83.4	2008	83.8
教職員		486	211	43.4	213	43.8
合計		2,882	2209	76.6	2221	77.1

<在籍別>

分 種 別	区	対象者数	受診者数			
			聴打診等 (受診率)		X線撮影 (受診率)	
学 部	1	96	93	96.9	93	96.9
	2	102	27	26.5	27	26.5
	3	539	492	91.3	496	92.0
	4	554	476	85.9	477	86.1
	計	1291	1088	84.3	1093	84.7
修 士	1	426	408	95.8	410	96.2
	2	478	378	79.1	381	79.7
	計	904	786	86.9	791	87.5
博 士	1	44	31	70.5	30	68.2
	2	53	34	64.2	34	64.2
	3	74	36	48.6	36	48.6
	計	171	101	59.1	100	58.5
※ 専 門 職	1	13	0	0.0	0	0.0
	2	17	0	0.0	0	0.0
非正規生		208	23	11.1	24	11.5
合 計		2,604	1998	76.7	2008	77.1

# 平成23年度定期健康診断結果 (学生・教職員)

平成23年6月22日現在

## ○内科診察の結果

	対象者数	受診者数	受診率	再診察			再診察の結果		
				要再診数	受診数	受診率	異常なし	経過観察	要精検数
学生	2,604	1998	76.7	9	9	100.0	3	3	3
教職員	486	211	43.4	1	1	100	1	0	0
計	3,090	2209	71.5	10	10	100.0			3

## ○胸部X線間接撮影の結果

	対象者数	受診者数	受診率	有所見数	要精検数
学生	2604	2008	77.1	6	4
教職員	486	213	43.8	0	0
計	3090	2221	71.9	6	4

## ○血圧測定の結果

	対象者数	受診者数	受診率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
学生	2604	2012	77.3	426	368	86.4	340	28	0
教職員	486	219	45.1	74	46	62.2	32	14	0
計	3090	2231	72.2	500	414	82.8	372	42	0

## ○尿検査の結果

	対象者数	受診者数	受診率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
学生	2604	2038	78.3	115	91	79.1	80	10	1
教職員	486	209	43.0	26	14	53.8	12	1	1
計	3090	2247	72.7	141	105	74.5	92	11	2



## 平成23年度定期健康診断結果(学年別)

### ○尿検査の結果

学年	対象者数	受診者数	受診率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受診率	異常なし	経過観察	要精検数
B1	96	92	95.8	6	6	100	6	0	0
B2	102	27	26.5	3	1	33.3	1	0	0
B3	539	485	90.0	20	19	95.0	15	4	0
B4	554	505	91.2	30	24	80.0	23	0	1
M1	426	422	99.1	20	16	80.0	14	1	1
M2	478	383	80.1	27	18	66.7	16	1	1
D1	44	31	70.5	2	2	100	1	1	0
D2	53	34	64.2	1	1	100	1	0	0
D3	74	36	48.6	4	3	75.0	2	1	0
専門1	13	0	0.0						
専門2	17	0	0.0						
研究生	208	23	11.1	2	1	50	1	0	0
計	2604	2038	78.3	115	91	79.1	80	8	3

### ○胸部X線間接撮影の結果

学年	対象者数	受検者数	受検率	有所見数	要精検数
B1	96	93	96.9	0	0
B2	102	27	26.5	0	0
B3	539	496	92.0	2	2
B4	554	477	86.1	2	1
M1	426	410	96.2	1	0
M2	478	381	79.7	0	0
D1	44	30	68.2	0	0
D2	53	34	64.2	0	0
D3	74	36	48.6	1	1
専門1	13	0	0		
専門2	17	0	0		
研究生	208	24	11.5		
計	2604	2008	77.1	6	4

## 平成23年度定期健康診断結果(学年別)

### ○内科診察の結果

学年	対象者数	受診者数	受診率	再診察			再診察の結果		
				要再診数	受診数	受診率	異常なし	経過観察	要精検数
B1	96	93	96.9	1	1	100	1	0	0
B2	102	27	26.5	0					
B3	539	492	91.3	0					
B4	554	476	85.9	0					
M1	426	408	95.8	3	3	100	0	2	1
M2	478	378	79.1	4	4	100	2	1	1
D1	44	31	70.5	0					
D2	53	34	64.2	0					
D3	74	36	48.6	1	1	100	0	0	1
専門1	13	0	0						
専門2	17	0	0						
研究生	208	23	11.1	0					
計	2604	1998	76.7	9	9	100.0	3	3	3

### ○血圧測定の結果

学年	対象者数	受診者数	受診率	再検査			再検査の結果		
				要再検数	受検数	受検率	異常なし	経過観察	要精検数
B1	96	94	97.9	22	18	81.8	18	0	0
B2	102	27	26.5	2	2	100.0	2	0	0
B3	539	495	91.8	93	79	84.9	72	7	0
B4	554	479	86.5	105	92	87.6	85	7	0
M1	426	410	96.2	80	70	87.5	66	4	0
M2	478	383	80.1	100	89	89.0	80	9	0
D1	44	31	70.5	6	5	83.3	4	1	0
D2	53	34	64.2	7	5	71.4	5	0	0
D3	74	36	48.6	9	7	77.8	7	0	0
専門1	13	0	0						
専門2	17	0	0						
研究生	208	23	11.1	2	1	50.0	1	0	0
計	2604	2012	77.3	426	368	86.4	340	28	0

## 平成23年度 応急処置発生状況(学生のみ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講義中	14	7	5	3	6	0	6	5	4	0	1	1	52
実験・実習中	2	1	1	0	3	3	3	6	2	2	9	4	36
体育・実技中	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
課外活動中	3	10	4	3	2	6	5	4	1	4	3	4	49
交通事故	0	1	2	3	1	0	0	0	1	0	0	0	8
その他	84	76	51	44	21	34	58	69	58	34	60	59	648
合計	103	96	63	53	34	43	72	84	66	40	73	68	795

## 平成23年度 発生より処置までの時間(学生のみ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30分以内	9	7	8	5	7	4	5	6	1	2	6	3	63
3時間以内	9	8	4	4	3	3	5	8	4	2	7	8	65
12時間以内	7	9	5	4	3	2	7	6	7	5	5	5	65
24時間以内	11	8	7	5	5	2	10	15	16	9	9	9	106
24時間以上	67	64	39	35	16	32	42	49	38	21	46	43	492
合計	103	96	63	53	34	34	69	84	66	39	73	68	791

平成23年度 体育・保健センター疾病者応急処置状況

長岡技術科学大学

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			合計		
	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計	学生	職員	計			
(1) すり傷・切り傷・刺し傷等	9 (0)	5 (0)	14 (0)	11 (1)	0 (1)	11 (1)	8 (1)	0 (1)	8 (1)	8 (0)	0 (0)	8 (0)	2 (1)	1 (1)	3 (0)	5 (0)	0 (0)	5 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (2)	12 (2)	2 (2)	14 (2)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	5 (0)	8 (0)	4 (0)	12 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	70 (5)	18 (5)	88 (5)
(2) 打撲・捻挫・筋肉痛	6 (1)	1 (1)	7 (1)	17 (3)	0 (3)	17 (3)	10 (1)	0 (1)	10 (1)	15 (2)	1 (2)	16 (2)	5 (0)	0 (0)	5 (3)	16 (3)	2 (3)	18 (3)	6 (3)	0 (3)	6 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (0)	1 (0)	6 (4)	12 (4)	4 (4)	16 (3)	8 (3)	0 (3)	8 (3)	5 (3)	1 (3)	6 (3)	109 (23)	11 (23)	120 (23)
(3) 火傷	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	16 (0)	2 (0)	18 (0)
(4) 頭痛・感冒等	75 (12)	4 (12)	79 (12)	44 (12)	1 (12)	45 (12)	23 (7)	1 (7)	24 (7)	8 (2)	1 (2)	9 (2)	9 (1)	5 (1)	14 (7)	11 (7)	3 (7)	14 (7)	57 (12)	8 (12)	65 (10)	30 (10)	2 (10)	32 (10)	23 (7)	10 (7)	33 (5)	11 (5)	7 (5)	18 (5)	20 (2)	6 (2)	26 (2)	15 (3)	9 (3)	24 (3)	326 (80)	57 (80)	383 (80)
(5) 腹痛・下痢等	6 (0)	1 (0)	7 (0)	9 (0)	0 (0)	9 (0)	3 (1)	2 (1)	5 (1)	8 (0)	1 (0)	9 (0)	11 (0)	1 (0)	12 (0)	5 (0)	2 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	4 (0)	4 (0)	8 (0)	7 (1)	1 (1)	8 (1)	5 (1)	1 (1)	6 (1)	2 (0)	2 (0)	4 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	67 (3)	17 (3)	84 (3)
(6) 歯・耳・鼻・咽頭に関する症状	44 (4)	3 (4)	47 (4)	12 (1)	0 (1)	12 (1)	10 (2)	1 (2)	11 (2)	8 (0)	2 (0)	10 (0)	3 (1)	0 (1)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (4)	23 (4)	2 (4)	25 (4)	19 (2)	3 (2)	22 (2)	6 (0)	4 (0)	10 (0)	8 (1)	4 (1)	12 (1)	15 (7)	3 (7)	18 (7)	150 (22)	27 (22)	177 (22)
(7) その他	23 (1)	1 (1)	24 (1)	25 (2)	0 (2)	25 (2)	13 (5)	1 (5)	14 (5)	12 (2)	1 (2)	13 (2)	4 (0)	3 (0)	7 (0)	6 (0)	4 (0)	10 (0)	3 (1)	0 (1)	3 (4)	13 (4)	5 (4)	18 (4)	19 (7)	2 (7)	21 (7)	13 (2)	3 (2)	16 (2)	26 (2)	4 (2)	30 (2)	24 (8)	3 (8)	27 (8)	181 (34)	27 (34)	208 (34)
計	164 (18)	15 (18)	179 (18)	120 (19)	1 (19)	121 (19)	68 (17)	5 (17)	73 (17)	62 (6)	6 (6)	68 (6)	35 (3)	10 (3)	45 (10)	48 (10)	13 (10)	61 (10)	71 (16)	13 (16)	84 (20)	86 (20)	17 (20)	103 (20)	73 (17)	19 (17)	92 (17)	51 (12)	21 (12)	72 (12)	73 (8)	21 (8)	94 (8)	68 (21)	18 (21)	86 (21)	919 (167)	159 (167)	1078 (167)

( )内は留学生を内数で示す。

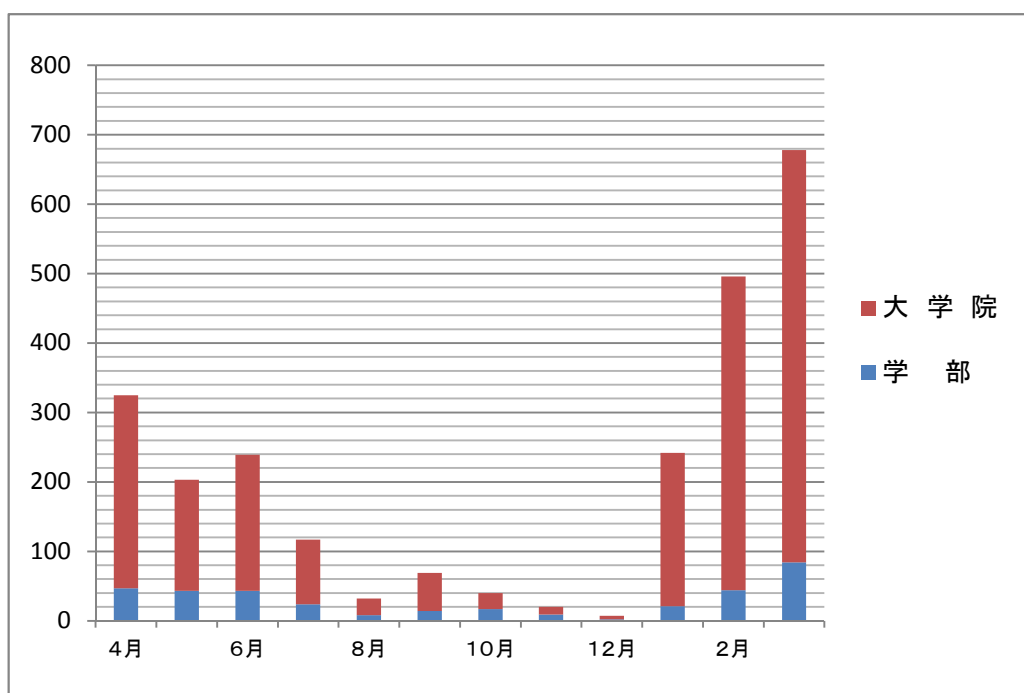
平成23年度健康相談者数

	学部生		大学院生		教職員	合計	累計
	日本人学生	留学生	日本人学生	留学生			
4月	31	3	4	1	1	40	40
5月	10	0	5	1	1	17	57
6月	4	0	2	4	0	10	67
7月	8	1	3	1	1	14	81
8月	0	0	2	0	2	4	85
9月	1	0	0	1	1	3	88
10月	10	0	3	2	3	18	106
11月	5	1	2	6	13	27	133
12月	6	1	3	3	1	14	147
1月	4	0	3	3	2	12	159
2月	2	1	3	0	3	9	168
3月	3	2	3	1	5	14	182
計	84	9	33	23	33	182	

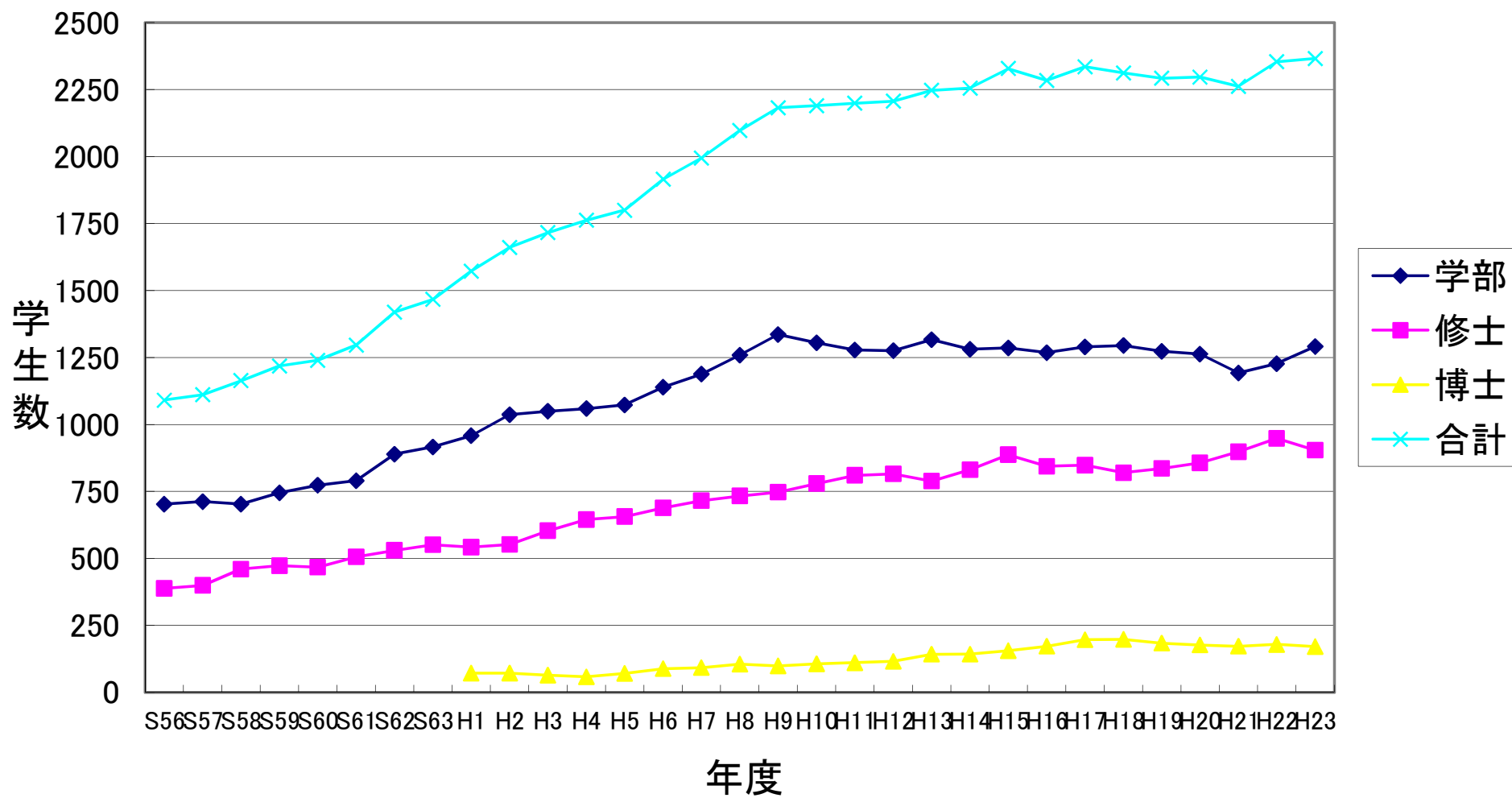
医療機関紹介数		
学部生	大学院生	教職員
0	0	0
2	0	1
0	2	0
2	0	0
0	0	1
0	0	1
0	0	1
1	1	6
1	2	0
1	0	0
0	1	1
1	0	0
8	6	11

## 平成23年度健康診断証明書発行数

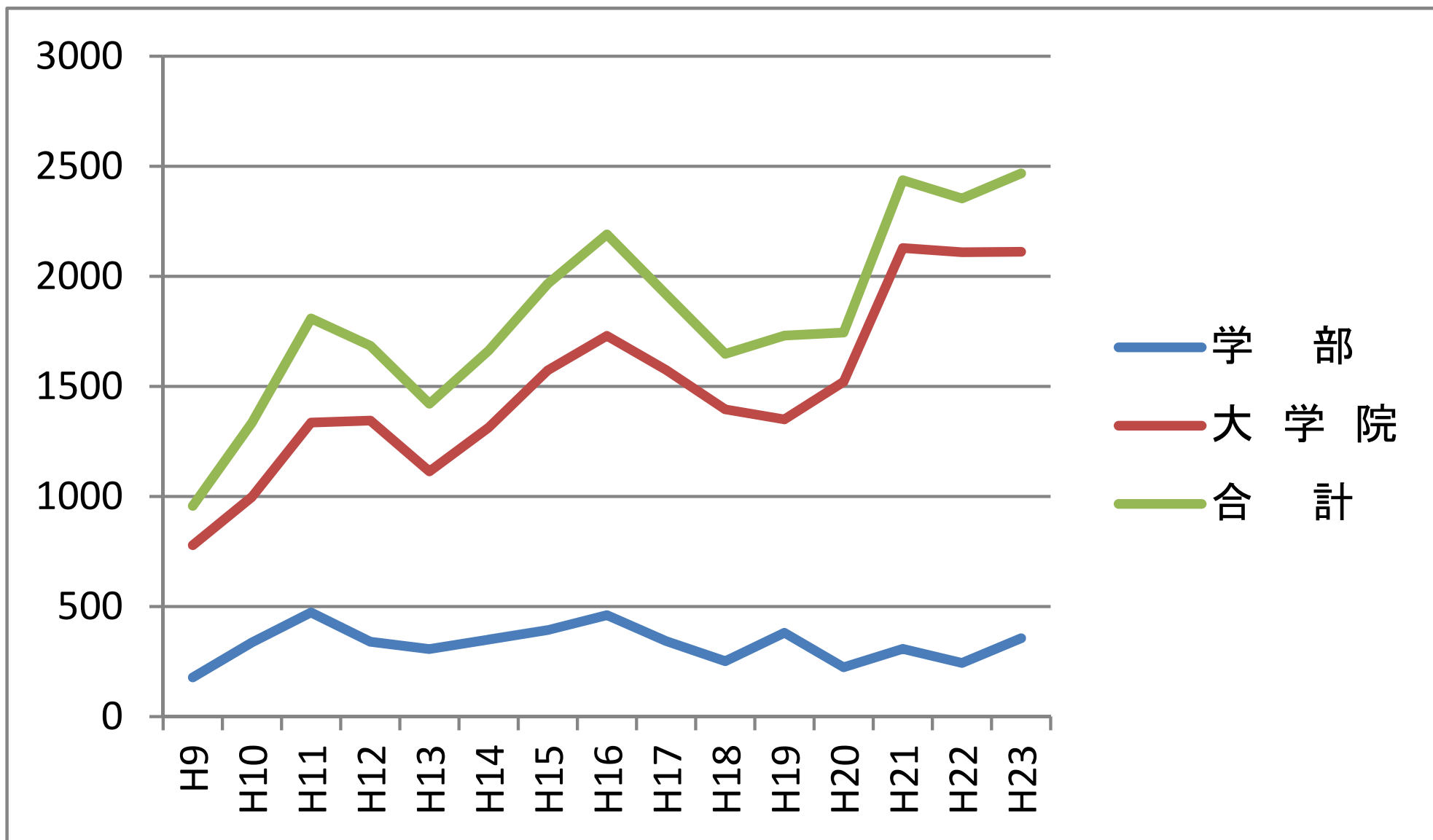
	学 部	大 学 院	合 計	累 計
4月	47	278	325	325
5月	43	160	203	528
6月	43	196	239	767
7月	24	93	117	884
8月	8	24	32	916
9月	14	55	69	985
10月	17	23	40	1025
11月	9	11	20	1045
12月	2	5	7	1052
1月	21	221	242	1294
2月	44	452	496	1790
3月	84	594	678	2468
計	356	2112	2468	



# 長岡技術科学大学 学生数

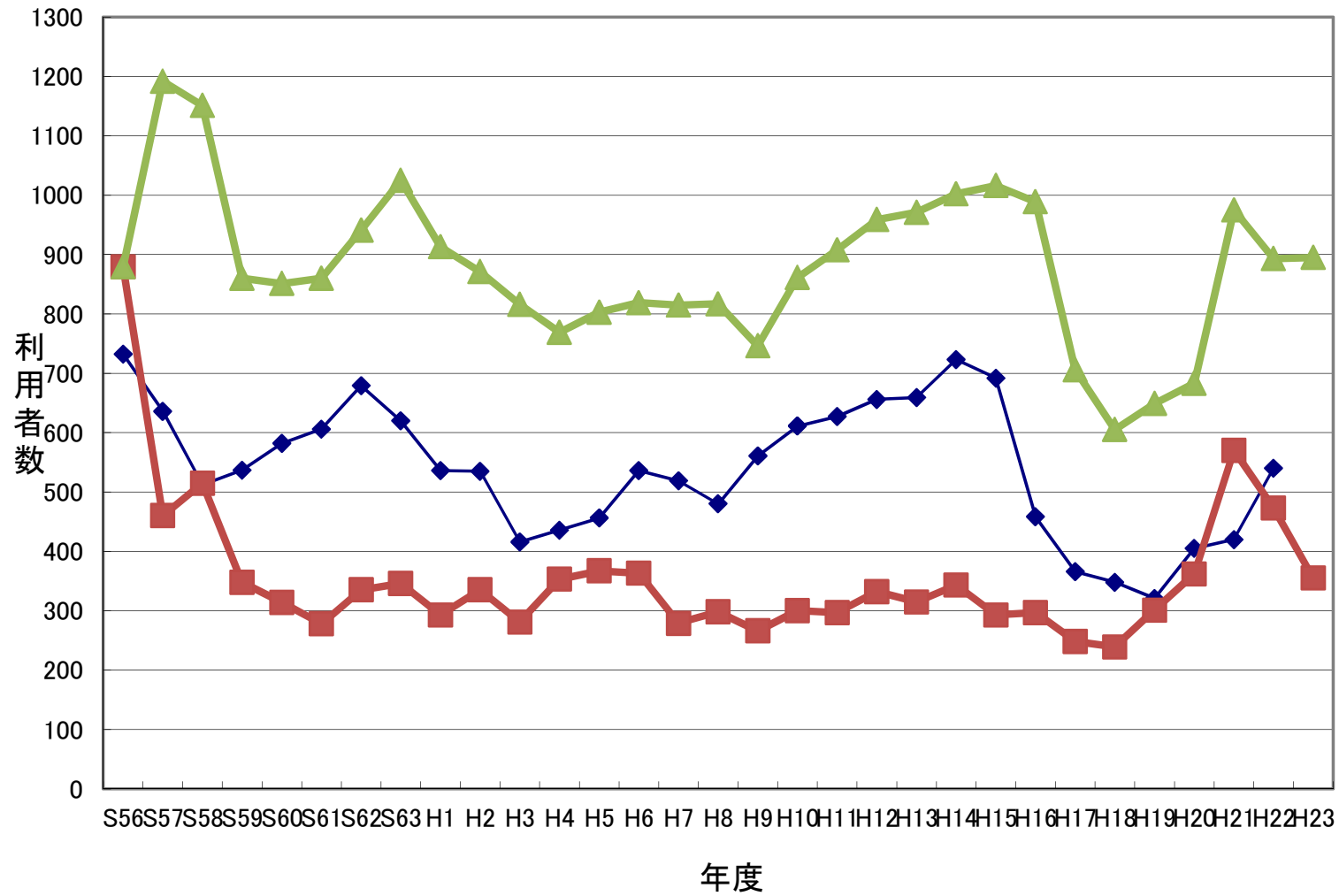


健康診断証明書の発行数経年変化(H9~H22)



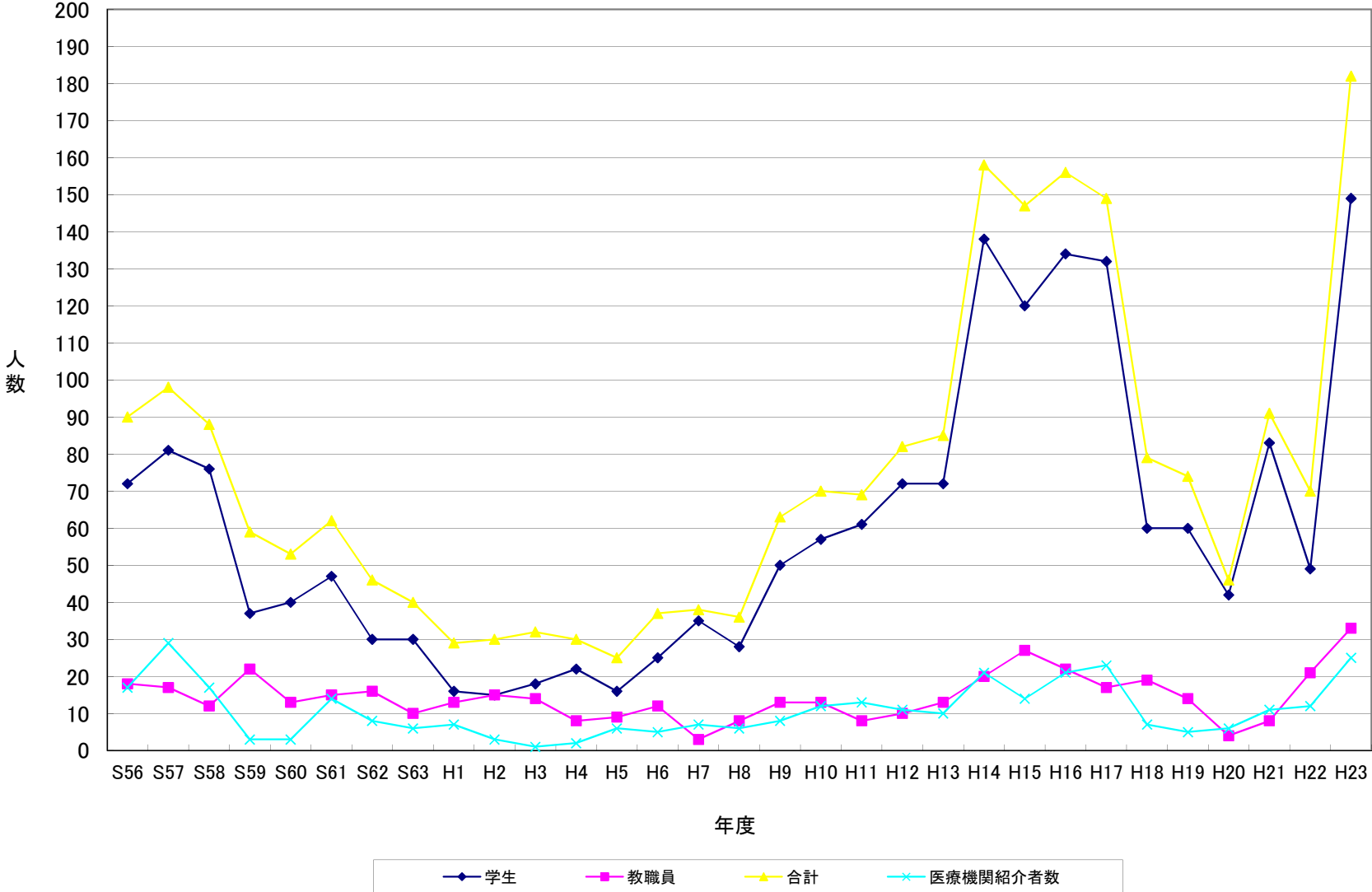


# 年度別応急処置状況



● 学部 ■ 修士 ▲ 合計

年度別健康相談者数



## 3. 自主点検票

# 診療所自主管理点検票

( H23年度分)

貴院の管理運営等について、半年に1回ほど自己点検を行ってください。 (点検年度・点検月日とともに、点検結果欄には、適なら[○]、不適なら[×]、貴院に該当しない項目は斜線を記入ください。) [×]の付いた項目については、直ちに改善措置をお願いします。 なお、今後、立入検査時に実施状況を確認させていただきます。		点検日	点検日	
点 検 項 目		9/30	3/30	
項目	確認事項	点検結果	点検結果	
広告	道路に面した場所等広く一般に確認できる看板等に広告規制に違反する項目はないか	/	/	
院内掲示	入口、受付又は待合室付近の見やすい場所に掲示しているか	○	○	
	定められた項目を掲示しているか ①管理者の氏名②診療に従事する医師又は歯科医師名③医師又は歯科医師の診療日及び時間	○	○	
医療法の手続き (変更等があった場合は、保健所への手続きが必要です。)	保健所に届出等を行った事項に対し、(以下同じ。) 開設(管理)者の住所・氏名に変更はないか	○	○	
	施設名・所在地に変更はないか	○	○	
	診療科名に変更はないか	○	○	
	診療日・診療時間に変更はないか	○	○	
	用途変更も含め、施設の変更はないか	○	○	
患者入院状況	各病室に定員を超えた患者を入院させていないか	/	/	
	病室でない場所(処置室、予備室等)に入院させていないか	/	/	
医療従事者資格	採用時に免許証原本の提示を求め、確認のうえ免許証写しの保存等を行っているか	○	○	
職員の健康管理	定期的に従事者全員の健康診断が行われているか。また、検査項目がすべて行われているか	○	○	
	健康診断個人票を作成し、5年間保存しているか	○	○	
診療録	診療録に必要な事項が記載されているか	○	○	
	・診療を受けた者の住所、氏名、性別、年齢	○	○	
	・病名、主要症状	○	○	
	・診療方法(処方及び処置)	○	○	
	・診療の年月日	○	○	
	過去5年間の診療録が保存されているか	○	○	
放射線管理	診療した医師の署名があるか(非常勤も含め医師が2名以上いる場合)	/	/	
	エックス線診療室等である旨を示す標識があるか	/	/	
	管理区域である旨の表示があるか	/	/	
	放射線障害防止に必要な注意事項(患者用・従事者用)を掲示しているか	/	/	
	使用中の表示があるか(ランプが点くか)	/	/	
	漏洩線量測定を6か月に1回以上実施し、結果を5年間保存しているか	/	/	
	医師・診療放射線技師・診療エックス線技師以外のものが放射線を照射していないか (医師立会い・指示のもとといえども看護師・歯科衛生士も含み無資格者はが操作ボタンを押すことはできない。)	/	/	
	保健所に届出を行っているエックス線装置に変更はないか	/	/	
医薬品の取扱	現像液・定着液の処理は適正か(廃酸・廃アルカリの産廃業者に委託、契約書・許可証・マニフェスト等適正か)	/	/	
	毒薬又は劇薬	毒薬又は劇薬を他の薬剤と区別して保管しているか	/	/
		毒薬は専用の鍵のかかる場所で保管しているか	/	/
		毒薬は黒地に白枠、白字をもってその品名及び「毒」の文字の記載、劇薬については、白地に赤枠、赤字をもってその品名及び「劇」の文字を記載しているか	/	/
		毒薬の受払い簿を作成し、定期的に数量を確認する等適正に保管管理しているか	/	/
	その他の医薬品	医薬品を他の薬品と区別して保管しているか	○	○
		医薬品及びその容器が清潔に保たれているか	○	○
		医薬品の数量、使用期限及び破損の有無等を確認しているか	○	○
		要冷所保存医薬品等の保管は適正になされているか	○	○
		冷蔵庫内は薬品専用としているか(食品等が混在していないか)	○	○
調剤所	調剤所は清潔に保たれているか	/	/	

項目		確認事項	点検結果	点検結果
医薬品の取扱	麻薬	麻薬取扱免許証を所持した麻薬施用者または麻薬管理者がいるか	/	/
		麻薬は、麻薬以外の医薬品(覚せい剤を除く)と区別し、鍵をかけた堅固な設備に貯蔵しているか	/	/
		麻薬管理者は麻薬診療施設に麻薬管理帳簿を備え2年間保存しているか	/	/
医薬品の取扱	麻薬	帳簿は、品名、剤型、濃度別に口座を設けているか	/	/
		帳簿には、必要事項が記載されているか	/	/
		・譲り受けた麻薬の品名、数量、その年月日(購入先麻薬卸売業者の氏名又は名称及び製品番号を備考欄記載)	/	/
		・廃棄した麻薬の品名、数量、その年月日	/	/
		・譲り渡した麻薬(使用のため交付したリン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデイン、塩酸エチルモルヒネを除く)の品名、数量、その年月日	/	/
		・施用した麻薬(リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデイン、塩酸エチルモルヒネを除く)の品名、数量、その年月日	/	/
		・事故届を提出した場合には、届出た麻薬の品名、数量、事故発生年月日、届出年月日(備考欄記載)	/	/
	向精神薬	向精神薬(ソセゴン、レペタン、リタリン、ペンタジン、ロヒプノール、ラボナ、イソミタール、サイレース)は鍵をかけ保管しているか	/	/
		容器等に「(向)」等適正な表示がなされているか	/	/
		譲渡、譲受、廃棄の記録をし、その記録を2年間保存しているか	/	/
	毒物又は劇物	劇物・毒物は他のものと区別して鍵のかかる専用の保管庫に保管しているか	/	/
		毒物又は劇物の容器及び被包に、「医薬用外」の文字及び毒物については赤地に白字をもって「毒物」の文字、劇物については白地に赤字をもって「劇物」の文字を表示しているか	/	/
		劇物・毒物を陳列・保管する場所には、「医薬用外劇物」、「医薬用外毒物」の文字を表示しているか	/	/
	感染性廃棄物	感染性廃棄物の収納容器にバイオハザードマーク又は表示(「感染性廃棄物」の旨、及び性状「液状又は泥状」、「固形状」、「鋭利なもの」の別)があるか	○	○
		収納されている廃棄物と容器のバイオハザードマークの色又は表示が適正か(赤色・「液状又は泥状(血液等)」、橙色・「固形状(血液付着のガーゼ等)」、黄色・「鋭利なもの(注射針・メス・破損したアンプル・バイアル等ガラス製器材)」)	○	○
注射針のリキャップは行わないようにしているか		○	○	
委託しようとする感染性廃棄物が事業の範囲に含まれているか		○	○	
委託業者は都道府県知事から収集運搬又は処分の業の許可を受けた者であるか		○	○	
委託契約書があり、契約書に不備は無く、許可証の写しが添付されているか		○	○	
マニフェストを交付しているか		○	○	
適切に処理されたことが返送されたマニフェストの写し(B2、D、E票)によりを照合確認し、A票の照合確認欄に確認した年月日を記載しているか		○	○	
マニフェストの返送を受けた日から5年間保存しているか		○	○	
院内感染対策	アルコール製剤による擦式消毒または石鹼と流水による手洗いが行われているか(洗面器を使用した手指消毒は不確実な消毒法のため行わないこと)	○	○	
	ディスポーザブルのペーパータオルを使用しているか ペーパータオルの設置は、手指からのしずく等による汚染防止が図られているか	○	○	
	使い捨て手袋を着用してケアする前後も手指の消毒は行っているか	○	○	
防火防災	非常口付近はスムーズに通れる状態であるか	○	○	
	消火設備(消火器、屋内消火栓、スプリンクラー、屋外消火栓等)があるか	○	○	
医療安全管理体制	■「医療安全管理指針」の策定と指針に基づく対策が実施されているか	○	○	
	■「院内感染対策指針・マニュアル」の策定と指針等に基づく対策が実施されているか(H19.6.30まで経過措置あり)	○	○	
	■「医薬品業務手順書」の策定と手順書も基づく業務が実施されているか(H19.6.30まで経過措置あり)	○	○	
	■「医療機器保守点検計画」の作成と計画に基づく業務が実施されているか(H19.6.30まで経過措置あり)	○	○	

## 4. 資料

- センター案内、学生相談室案内  
(H23 年度入学式配付資料)
- 体育・保健センター講演会 H23. 7. 13
- 解説 三宅 仁「東日本大震災に中越の  
経験を活かす」 CampusHealth49 (2)  
126/130, 2012

### 3. 定期健康診断

- 定期健康診断は毎年5月に学校保健安全法に基づいて全学生を対象に行っています。(胸部X線撮影、内科診察、身体計測、血圧測定、尿検査等)
- なお、就職時または大学院進学時に必要な健康診断証明書は、この定期健康診断を受診していないと発行できませんので、全員必ず受診して下さい。



#### 健康診断証明書の発行について

5月の定期健康診断を受けている場合、健康診断証明書を発行します。必要とする2日前までに体育・保健センターで申し込んで下さい。急いで必要な時はその旨申し出て下さい。

健康診断では**学生証が受診に必要**ですので忘れないようにして下さい。

### 体育・保健センタースタッフ



**三宅 仁** 教授、センター長  
(保健管理担当、学校医、産業医、ハラスメント総括相談員、経営情報系生活福祉支援情報工学講座、9822)



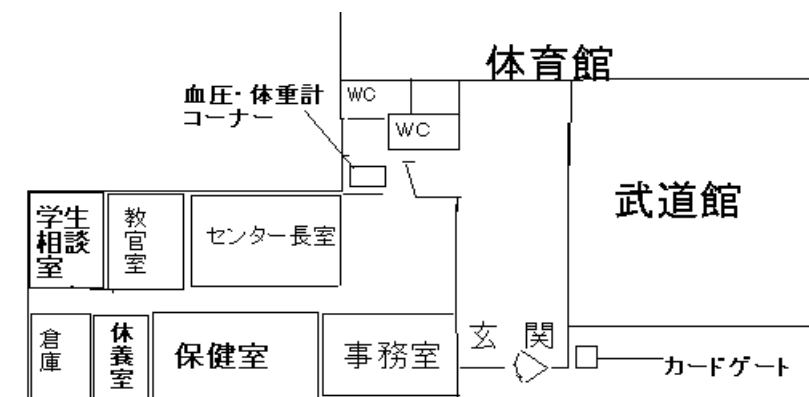
**塩野谷 明 准教授**  
(体育担当、経営情報系生活福祉支援情報工学講座、9823)

- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| <b>瀧澤 信子</b>  | 非常勤看護師                       |
| <b>木村 嶺子</b>  | 非常勤学校医 (木村医院)                |
| <b>森田 善晴</b>  | 非常勤学校医<br>(メンタルヘルスクリニック長岡院長) |
| <b>角田 智恵美</b> | 非常勤カウンセラー<br>(ハラスメント相談員)     |
| <b>三浦 かおり</b> | 非常勤カウンセラー<br>(ハラスメント相談員)     |
| <b>野村 智子</b>  | 非常勤カウンセラー                    |

## 体育・保健センター案内

# 2012

☆ 体育・保健センター



長岡技術科学大学 tel. 0258-46-6000  
 体育・保健センター tel. 0258-47-9824  
 e-mail : hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp  
 http://www.melabq.nagaokaut.ac.jp/

体育・保健センターでは自ら健康であり体力を高めるため、諸々の体育施設を整えるとともに積極的にスポーツを奨励し、体育活動に関し指導、助言を行っています。

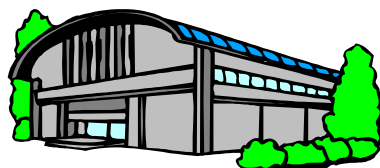
また、学生、教職員の健康管理のため、応急処置、健康診断、健康相談等の業務を行っています。

自ら積極的にスポーツや体力測定を行い、「健康や体力の重要性」を肌で感得し、また、正課体育で学習した成果を課外スポーツの発展に結びつけ、大学生活をさらに有意義なものにするとともに、スポーツを生涯にわたって実施する習慣を身につけましょう。

大いに体育・保健センターを利用して下さい。

## 1. 施設の概要

- 体育施設：体育館、武道館、トレーニングルーム、屋内プール、陸上競技場、野球場、ラグビー場、テニスコート、多目的グラウンド、ゴルフ練習場、弓道場
- 保健施設：保健室、休養室、学生相談室



## 2. 体育・保健センターの利用

### (1) 体育施設

#### あ) 利用方法

団体（クラス、研究室単位等）で使用したい場合は、使用する3日前までに「体育施設（特別）使用許可願」を学生課に提出し、許可を受けて下さい。なお、団体で使用する体育用具も、使用する3日前までに願い出て下さい。

課外活動で定期的に使用したい場合は、4月及び11月に「体育施設使用計画書」を学生課に提出し許可を受けて下さい。

昼休み（12:00～13:00）は自由に使用できます（屋内プールを除く）。なお、体育用具を昼休み時間等に一時使用する場合は、係員に申し出て下さい。

#### い) 利用時間

○ 月曜日～金曜日 8:30～21:00

なお、課外活動のための体育施設の使用割当については、4月及び11月にセンターに掲示します。

#### う) 休館日

- 日曜日及び土曜日
- 国民の祝日（日曜日に当たる時はその翌日）
- 年末年始（12月29日～1月3日）

なお、臨時休館及び開館・閉館の変更は、その都度センターに掲示します。

#### え) 休館日の特別使用

課外活動及び体育活動で、特に休館日に体育施設を使用したい場合は、使用する3日前までに「体育施設（特別）使用許可願」を学生課に提出し、許可を受けて下さい。



### (2) 保健施設

#### あ) 保健室

学内での外傷、急病などの不慮の疾患に対して医師及び保健師が応急処置を行います。また、毎週水曜日の午後に医師による健康相談を行っています。診断並びに健康相談の結果、応急処置で治療できない外傷及び治療を要すると認められた場合には、専門の病院を紹介しています。（この場合の診療費は個人負担となりますので、保険証を持参して下さい。）

なお、時間外及び休館時におけるけがや病気で救急

病院に行くまでに至らないものに対処するため、エネルギーセンターに「救急箱」を設置してあります。

また、各種健康器具（全自動身長体重計、全自動血圧計、体内脂肪計等）が備えてありますので、健康状態を知る参考にして下さい。

#### い) 休養室

身体の不調などで休養をとりたいときは、ベッドが用意してありますので、利用して下さい。

#### う) 学生相談室

学生生活における種々の相談場所として学生相談室があります。毎週火・金曜日は専門家によるカウンセリングにしています。（学生相談室案内参照）また、定期の相談日以外でも可能な限り相談に応じますので、身体に異常が生じたり、悩みごとがあるときは、いつでも気軽に申し出て下さい。相談内容については秘密を守ります。



#### \* 利用時間等について

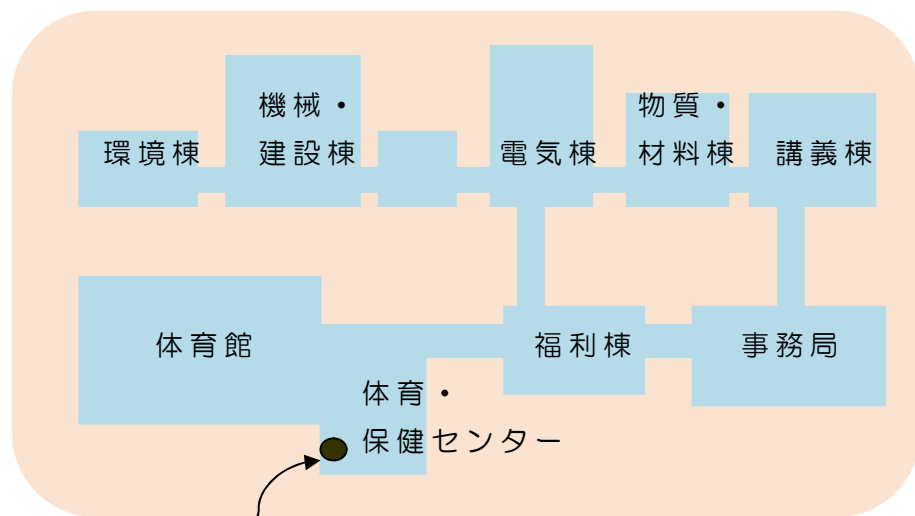
◇ 健康相談……………9:00～17:00  
(随時受け付けます)

◇ カウンセリング……毎週月・火・水曜日、  
(要予約) 隔週金曜日

◇ 応急処置等……………月～金曜日  
8:30～17:00



● 学生相談室の場所



学生相談室



学生相談に関する案内

[http://www.nagaokaut.ac.jp/j/gakubu/soudan\\_annai.html](http://www.nagaokaut.ac.jp/j/gakubu/soudan_annai.html)

# 学生相談室案内 2012

有意義な学生生活を送るために



小さなことから相談してみよう・・・



学生相談室

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町 1603-1

TEL : 0258-47-9824

E-mail : [hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp](mailto:hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp)

## ● 学生相談室とは・・・

学生相談室は、授業や研究、課外活動、その他学生生活全般にわたる様々な相談を常時受けています。

大学生活の中で生じる悩みや課題は、自分自身について考えるよい機会ともなります。カウンセラーからアドバイスを受けたり、気持ちを話して整理することで、問題解決の糸口を自ら見つけ出していく場所でもあります。

学生相談室は、皆さんがより有意義な学生生活を送ることができるように活動しています。相談内容については、プライバシーの保護を厳守していますので、小さな悩みや、どこに相談に行ったらいいか迷う時にも気軽にご利用ください。

## ● 主な活動

- 学生生活に関する相談
- 教職員からの相談・コンサルテーション
- 保護者からの相談
- 心理・精神保健に関する情報提供



相談内容の秘密は厳守します。

## ● 開室時間

月曜日	三浦かおり（臨床心理士）	9時～17時
火曜日	角田智恵美（臨床心理士）	12時～17時
水曜日	野村智子（臨床心理士）	
金曜日（隔週）	三浦かおり（臨床心理士）	

\* 英語での相談も可能です。

## ● 相談スタッフ



- 常勤の学校医 1名
- 非常勤の医師（精神科医） 1名
- 非常勤のカウンセラー 3名

## ● 利用方法

予約制となっています。時間が空いていれば対応しますが、事前に直接来室するか、電話またはメールにて申し込んでください。

体育・保健センター 保健室  
月曜日～金曜日 9時～17時  
(昼休み12～13時)

TEL 0258-47-9824

E-mail: [hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp](mailto:hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp)

# 体育・保健センター 学生相談室のご案内



体育・保健センターには、屋内体育施設（体育館・武道館・トレーニングルーム・屋内プール）、保健室、学生相談室があります。

健康で有意義な学生生活が送られるよう、体育・保健センターを大いに活用してください。

## 体育施設

体育授業等に支障のない範囲で、希望者は課外活動のために体育施設を利用することができます。

**利用方法** 体育・保健センター事務室にて所定の手続きを行ってください。  
昼休み（12:00～13:00）は、屋内プールを除き自由に利用できます。

**利用時間** 月～金曜日 8:30～21:00

※休業日に課外活動のため、体育施設を利用する場合も所定の手続きを行ってください。

## 保健室

**業務内容**

- ・健康相談（医師、精神科医師、看護師）
- ・外傷・急病への応急処置（医師、看護師）
- ・定期健康診断の実施、健康診断証明書の交付
- ・医療機関の紹介、体脂肪率・血圧測定、禁煙支援、他

**開室時間** 月～金曜日 8:30～17:00（昼休み12:00～13:00）

**スタッフ** センター長・学校医・産業医 三宅 仁（経営情報系教授）

看護師 瀧澤 信子

その他、精神科専門医や内科医師も相談に応じています。

## 学生相談室

学生相談室は、大学生活のさまざまな問題・悩み・心配ごとについて解決のお手伝いをします。相談内容等については、プライバシーの保護を厳守しています。本人の同意なく情報が第三者に提供されることはありませんので、安心して利用してください。

### ■例えば

- ・人間関係で悩んでいる…
- ・将来のことについて迷っている…
- ・この頃、何もする気がおきない…
- ・恋愛のことを考えてみたい…
- ・ハラスメントについて悩んでいる…
- その他どんなことでもどうぞ



予約制となっています。保健室に事前にご連絡ください。

**利用方法** 英語での相談も可能です。(English is available.)  
TEL: 0258-47-9824 (直通) 8:30～17:00 e-mail: hcc@melabo.nagaokaut.ac.jp

**開室時間** 月～水曜日、金曜日のみ隔週 12:00～17:00

三浦 かおり（臨床心理士） 月曜日、金曜日

**スタッフ** 角田 智恵美（臨床心理士） 火曜日

野村 智子（臨床心理士） 水曜日



※その他、「クラス担任」、「学生相談員」、「アドバイザー教員」、「研究遂行上の悩み相談員」や「学生支援センター」などでも皆さんの相談に応じています。詳細は、大学のHP「相談のご案内」にて確認してください。

(URL [http://www.nagaokaut.ac.jp/j/gakubu/soudan\\_annai.html](http://www.nagaokaut.ac.jp/j/gakubu/soudan_annai.html))

# Information

必ず全員受けてください！

## 定期健康診断案内

定期健康診断は、病気や身体の異常を早期に発見・治療し、学業に専念できるようにするためのものです。

**重要** 就職活動や奨学金の申請に必要な健康診断証明書は、健康診断を受診した方にのみ発行します。



### 実施日程

受付時間	午前9:00～11:30	午後13:00～13:30	午後13:30～16:30
5月 9日(水)	男女混合	女子のみ	男女混合
5月10日(木)			
5月11日(金)			

\*今年度、女性だけの時間帯を設けましたが、短時間のため、その他の時間帯に受けることも可能です。最短でも30分以上かかります。余裕をもって受診してください。



### 会場

体育館・武道館



### 対象

全学生、教職員



### 健診項目

問診記入、身長・体重、腹囲、視力、血圧、尿検査、胸部レントゲン、内科診察



### 受診方法

- 持ち物 ① **学生証** (必ず持参してください。)  
② メガネ・コンタクトを使用している人は、装着または持参してください。
- 服装 ① Tシャツなど着脱しやすい服装の上に上着をはおり、アクセサリーをはずして来てください。



### その他

- ・女性の方で当日尿検査が受けられない方は、5月15日(火)～17日(木)の再検査日に検査しますので、会場に設置してある尿検査容器を持ち帰ってください。
- ・**不要な再検査を防ぐため、健診前日は十分に睡眠をとり、運動直後の受診は避けましょう。**
- ・2012年度健康診断証明書の発行は6月1日以降を予定しています。

定期健康診断で得られた個人情報保護され、健康管理の目的以外に使用することはありません。

健康診断に関するご相談・問い合わせは体育・保健センターまで TEL.0258-47-9824

編集後記

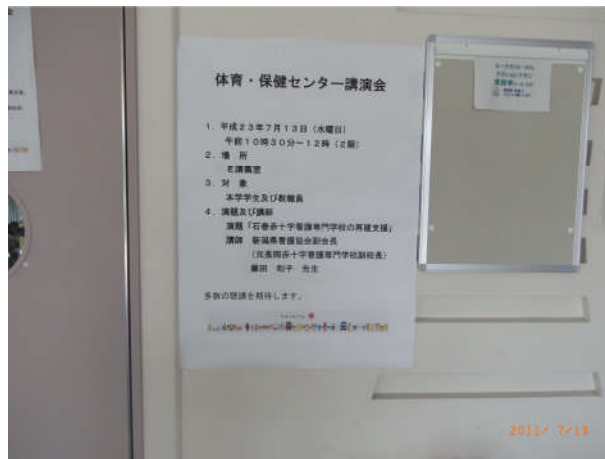
新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。  
これから始まる大学生活に、胸躍らせている方も多いと思いますが、みなさんは大学生活をどのように過ごしたいと思っていますか？  
入学時は長いように思える学生生活も、過ぎてしまえばあっという間です。学業や課外活動に時間を費やすことのできる学生のうちに、積極的にいろいろなことにチャレンジし、多くの経験を積んで自らを成長させることができるよう、また、一生の友となる仲間を作り、充実した毎日を過ごすことができるよう、ぜひ目的意識を持って大学生活を送ってもらいたいと思います。みなさんの大学生活が実りあるものになるよう願っています。



Challenge! vol.16 (平成24年4月)

編集発行：長岡技術科学大学学務部学生支援課  
〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1 Tel.0258-47-9253 Fax.0258-47-9050  
E-mail : gakuseigroup@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性  
この印刷物は、印刷用の紙  
リサイクルできます。



特 集 〈東日本大震災と大学〉  
東日本大震災に中越の経験を活かす

〈「CAMPUS HEALTH」49 (2) 特集号 別刷・平成24年3月発行〉

三 宅 仁

長岡技術科学大学体育・保健センター

## 東日本大震災に中越の経験を活かす

長岡技術科学大学体育・保健センター 三宅 仁

### 中越大震災の概要と教訓

我々は2004年（平成16年）10月23日、新潟県中越地方を震源とする震度7の烈震に襲われたが、幸いにして大学としてはあまり大きな被害ではなかった。その実態と教訓などについてはすでに報告している<sup>1)・2)</sup>が、ここではその報告<sup>1)</sup>から要点を抜粋する。

2004年10月23日午後5時56分頃、新潟県中越地方（長岡市、小千谷市、川口町、旧山古志村など）を震源とする震度7の烈震が発生した。長岡技術科学大学は長岡市の西部丘陵地帯に位置し、幸いなことに被害は最小限ですんだが、大学保健管理センターの役割という点において多大な問題提起がなされたと思われる。本特別報告「地震を巡って」では、その後の同年12月28日スマトラ島西方沖地震および津波、2005年3月20日の福岡県西方沖の地震、さらには4月11日の千葉県中部地震など比較的規模の大きい地震が相次いでいることを踏まえ、我々の実態を報告し、何らかの教訓を汲み取って頂ければ幸いである。

1) 中越地震の特徴として特に挙げたいのは直下型であり、また余震が従来言われていたものと違って規模の大きいものが続いたことである。このため、実際の被害も拡大したが、心理的な不安の継続が多大なストレスをもたらした。また今冬は例年になく豪雪であったためその被害が増された。気象庁の地震情報や独

立行政法人・防災科学技術研究所が運営するHi-net 高感度地震観測網によれば、ほとんど毎日全国のどこかで地震が起きており、空白地帯はない。むしろ比較的少ないところは今後の大地震の確率が高いと考えた方がよい。

2) 一方、前記の状況にも関わらず、種々の好条件が重なったためか、地震の規模に比較して人的被害は少なかった。また医療関係の状況としては、阪神・淡路地震等の教訓などにより、初期から多数の救助・応援があり、ほぼ満足すべき状況であったといえよう。エコノミークラス症候群やたこつぼ型心筋症などの肉体的疾患はこの地震でさらに注目された。精神疾患のPTSD（posttraumatic stress disorders 心的外傷後ストレス障害）はもはや定番であるが、対策としては十分な人的資源の投入以外には適切な解答とは言えない。我々はスクリーニングとして多数のアンケート調査を行なったが、これも負の側面があることを忘れてはならないであろう。

3) 本学の状況としては幸運にもほとんど人的被害はなく、建物や実験装置等に若干の被害があったのみであった。ただし、このような大規模災害に対する準備・マニュアル等がなく、当初は混乱した。特にASD（acute stress disorder 急性ストレス障害）・PTSD等を含めて、精神的なサポートは学生のみならず、教職員すべてにとって重要であった。当センターとしては物理的なサポートはできなかったものの、精神的なサポートの実践は多少できたと考

えるが、継続的なサポートができなかった点も含め、課題も多い。

### 保健管理センターの役割

保健管理センター（長岡技術科学大学においては体育・保健センター）の役割については文献<sup>2)</sup>で考察を行った。以下、要点を示す。

【中越大震災の概要】種々の好条件が重なったためか、地震の規模に比較して人的被害は少なかった。本学も幸運にもほとんど人的被害はなく、建物や実験装置等に若干の被害があったのみであった。ただし、このような大規模災害に対する準備・マニュアル等がなく、当初は混乱した。

【体育・保健センターの対応】ASD・PTSD等を含めて、精神的なサポートは学生のみならず、教職員すべてにとって重要であった。我々はスクリーニングとして多数のアンケート調査を行なった。その結果、今回の地震の特徴として余震が多いことが挙げられるが、それに伴い、不安が長引いたことが窺われた。特に留学生の問題例が多く、留学生対策の重要性が指摘できる。また、避難所の巡回、教授会等を通じての情報提供などを行なった。ただし、継続的なサポートを行うためには種々の困難が伴った。

### 新潟県中越沖地震

その後、2007年（平成19年）7月16日10時13分頃、新潟県中越地方沖を震源とするマグニチュード（M）は6.8、震度6強の地震が新潟県柏崎市を襲った。ここには新潟産業大学と新潟工科大学の2大学があり、両者ともいわゆる一人保健師勤務の保健室であったが、当初連絡が取れず、心配した。保健師自身が被災しており、相当の混乱があった。2004年の経験から、両保健室を支援したが、物的支援、人的支援は当然であるが、精神的な支援の重要性も改めて感じられた。

このように、筆者らの大学及びその近辺では

比較的大規模な地震が2年半の間に2回有り、地震への備えとして、情報の重要性が特に感じられた。

### 保健師・看護師分科会における全国ネットワーク（e-nurse）の構築

前記の2大学や我々の大学のように、比較的少人数（高々2人）で運営されている保健管理センター（保健室）は全国に多く、このような大災害時に十分な物的あるいは人的な対応が可能とは考えられない。しかし、何が必要で、何をすべきか、というような情報は非常に重要であるが、被災した大学で的確な情報をその大学の構成員に提供することは困難である。したがって、外部から適切な情報提供を行うことができる体制を整備しておく必要性を感じた。そこで、保健師・看護師分科会における全国ネットワーク（e-nurse）の構築を試みることにした<sup>3)</sup>。おりしも2008年春には麻疹の流行があり、情報流通の重要性は高まっていた。さらに翌々年の2009年春にはいわゆる新型インフルエンザの流行があり、地域的な孤立を強いるパンデミックの恐ろしさを感じさせた。

そこでまず全国7ブロックの代表者によるe-nurse、各地区毎のe-nurse-kkseなど、さらに各県ごとのe-nurse-chiba、e-nurse-niigataなどを立ち上げた。

しかしながら、本年に至っても全国規模のネットワーク完成とは言いがたい状況である<sup>4),5)</sup>。（最新の状況については、平成23年度全国大学保健管理研究集会で発表予定。）他方、今回の東日本大震災によって、特に関東地方では情報網構築の重要性が認識されつつあり、7月に開催された地方会において、その準備会合もたれた模様である。

### LIFE-MLの構築

3月11日に発生した東日本大震災以前から、healthML、phf-net、uh-infoなど筆者らが運営する保健管理関係者のそれぞれの職責に応じたネットワークがあり、また全国大学保健施設協



から見聞したその石巻市に存立する石巻赤十字看護専門学校<sup>6)</sup>の再建に関わった人物の報告<sup>6)</sup>を引用したいと思う。

石巻赤十字看護専門学校は比較的海岸に近い旧市街に立地しており、3月11日の津波に襲われたが、全校学生・教職員（当時全員で100人足らず）の協力により、数日後であったが、全員無事石巻赤十字病院に避難できた。その後、学校再開のため、日本赤十字本社の依頼により元長岡赤十字看護学校副校長の藤田和子氏が派遣され、わずか3ヵ月足らずの6月1日に再開可能であったという。その間、現地職員は自身の被災や町全体の機能不全などにより、メモ用紙すらないような状況の中で、再開か廃校かというようなぎりぎりの選択し、石巻専修大学の臨時教室提供などの支援もあり、将来の学校再建ととりあえずの学校再開にこぎつけたという。

この報告は、学校全体の運命であり、学内の一組織である保健管理センターとしての教訓にはやや次元が違うかもしれないが、同じ医療職あるいは教職として、多大な教訓が含まれていると思われる。すなわち、甚大な災害の場合、最悪のケースとして再建の断念もあること、保健記録などの重要書類が紛失することがあること、などである。学生が教員を励ましたというようなエピソードもあり、運命共同体としての日頃の人間関係の在り方にも教訓があろう。

## 大災害における保健管理センターの役割 —まとめにかえて

備えあれば憂い無しと言われるが、当然、物心両面の備えである。しかし、ありとあらゆる状況に対処しようとするれば多大なコストが必要であり、現実的ではない。畑村洋太郎氏の『未曾有と想定外』<sup>7)</sup>によれば、以前は津波からは逃げるのが基本であったが、いつからか津波に立ち向かうことを考え、1度それに成功したので、ますます巨大な防潮堤を作り、それに全幅の信頼を寄せてしまい、今回の逃げ遅れを招いたとのことである。自然の力の前には謙虚となり、ある想定を越えれば、人命第一に避難することが最善の対応であろう。そしてその後の行動こそが我々保健管理のプロに求められている役割ではないかと思われる。

われわれが経験した中越大震災の経験は今回の東日本大震災に比較すれば、まさに大河の一滴と言ってよいほど小さなものであり、かなりの齟齬があると思われるが、災害直後の無力感は共通のものと思われる。他方、精神的支援、情報収集および情報伝達、学外医療機関との連携など、可能なこと、すべきことは多くあり、さまざまな状況を繰り返し考えつつ、日常の業務を遂行することが我々の役目であると思われる。また、すべきでないことも考慮しておく必要がある。

被災地すべての復旧・復興を祈念する。

2 被災状況（発災直後）

日本赤十字社 写真提供



図2 被災直後の石巻赤十字看護専門学校外観  
(元長岡赤十字看護学校 藤田 和子氏提供)

2 被災状況（発災直後）

日本赤十字社 写真提供



図3 被災直後の石巻赤十字看護専門学校内部  
(同 左)

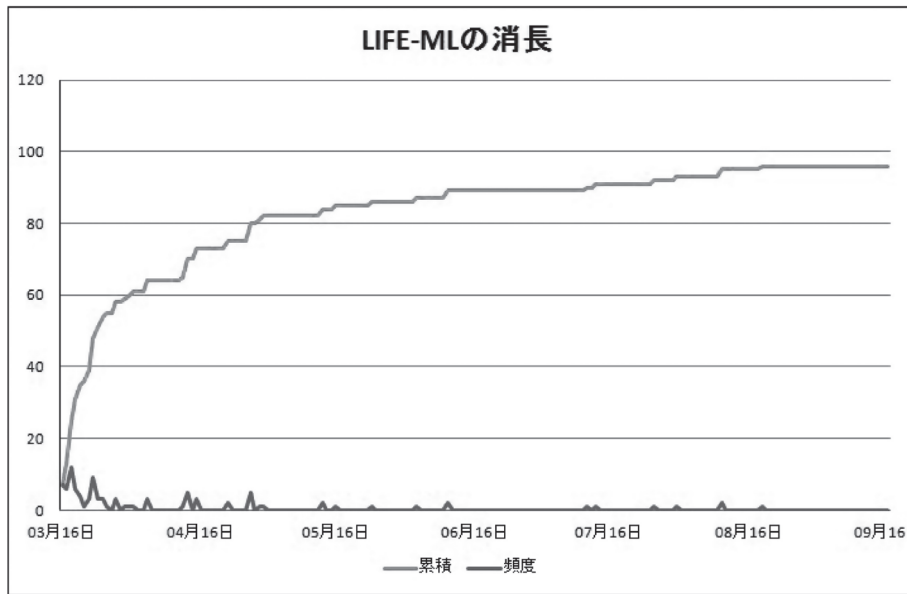


図1 LIFE-MLの消長

議会が運営する kyougi-ML も存在した。後者は保健管理施設の責任者の公式なネットワークである。今回の震災を契機に、これらのメーリングリストの参加者約400名からなるメーリングリスト LIFE を 3月16日に立ち上げた。

この設立には上記のような実状に加え、東北太平洋沿岸部のみならず関東地区全体が事実上被災したことがある。すなわち、kyougi-MLの運営主体である千葉大学も計画停電を余儀なくされ、運営が阻害される恐れがあったためである。筆者らの施設は計画停電から免れたが、万一のことを考え、代替の運営を広島大学保健管理センターに依頼した。結果的には問題なく運営可能であった。しかし、大学全体の運営上、節電が要求され、また突然の停電にも備えるため、別途非常用電源も準備した。

図1に示すように半年で累積頻度は約100通であり、実質的には3ヵ月程度でその役割が終了していた。したがって、9月16日をもって終了した。

### 被災地の現状

東日本大震災においては東北の3県が地震に引き続いた津波被害により、クローズアップされがちであるが、千葉県、茨城県、栃木県などもかなりの地震被害があり、東京都の一部や、

連動したと見られる地震による被害（長野県、新潟県、静岡県など）もあり、被災地域は広範囲に及んでいる。したがって、この地域に関係する大学キャンパスのみならず、通学・通勤する学生・教職員の居住地にも被害が及んでいるはずである。保健管理センターは一般に大学本部に隣接した立地であるが、キャンパスの隅々、他のキャンパス、居住地などにも配慮が必要となろう。さらに、福島第1原子力発電所の事故の影響は広範囲に及んでいる。

また、東北の太平洋沿岸地域での津波被災地は地震の影響は比較的小さかったものの、津波の被害が大きかったことは言うまでもない。しかし、阪神淡路大震災や中越大震災なども同様であったが、被害の範囲は比較的明瞭に区分される。すなわち、道路1本を挟んで、甚大な被害を被った地域と、ほとんど無傷の地域とが時間が経つにつれ、より明瞭に現出してくる。これは比較的広いキャンパス内でも生じ、その利用者（居住者）間で心理的な軋轢が生じることになる。いわゆる復興期には明瞭となるので注意が必要である。

### 石巻赤十字看護専門学校の再建

今回の被災地の中でも象徴的な被災都市として宮城県石巻市が挙げられるが、ここで偶然な

## 謝 辞

元長岡赤十字看護学校副校長の藤田和子氏におかれては、長岡技術科学大学体育・保健センター主催講演会において講演された貴重なスライドの提供をご快諾頂いた。また、LIFE-MLにあたっては、全国大学保健管理施設協議会会長の千葉大学長尾啓一先生、広島大学保健管理センター長吉原正治先生他多くの方々の協力を得て運営された。さらには、被災地の保健管理センタースタッフの方には復旧・復興中にも拘わらず、いくつかの不躰な質問にも丁寧にお答え頂いた。記して謝意とする。

## 引用文献

- 1) 三宅仁. 中越地震の教訓. CAMPUS HEALTH 2006 ; 43 (1) : 99-103.
- 2) 三宅仁. 小番美穂. 中越地震と保健管理センターの役割. CAMPUS HEALTH 2006 ; 43 (1) : 9-3-3. 285.
- 3) 三宅仁, 葛輝子. 保健師・看護師部会における全国ネットワーク (e-nurse) の立ち上げ. CAMPUS HEALTH 2009 ; 46 (1) : 75-77.
- 4) 三宅仁, 葛輝子. 保健師・看護師分科会における全国ネットワーク (e-nurse) 第2報. CAMPUS HEALTH 2010 ; 47 (1) : 91-93.
- 5) 三宅仁, 葛輝子. 保健師・看護師分科会における全国ネットワーク (e-nurse) 第3報. CAMPUS HEALTH 2011 ; 48 (1) : 121/123.
- 6) 藤田和子. 石巻赤十字看護専門学校再建支援. 平成23年7月13日平成23年度長岡技術科学大学体育・保健センター講演会において.
- 7) 畑村洋太郎. 未曾有と想定外—東日本大震災に学ぶ. 講談社現代新書. 2011.



H23. 7. 13 センター講演会

長岡技術科学大学 体育・保健センター

年報 平成23年度（速報）版

平成24年4月 発行（pdf版）

（C）2012 無断引用お断り

編集 体育・保健センター

連絡先 〒940-2188 長岡市上富岡町 1603-1

長岡技術科学大学 体育・保健センター

担当 三宅 miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp

TEL 0258-47-9822 Fax 0258-47-9821